

平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：キャリア教育支援事業

平成 26 年 9 月 12 日（金）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>【丸山康幸氏（有識者）】 市町村プラットフォームとは何か。</p> <p>自立支援コーディネーターの配置対象となる県立高校は全体で何校あるのか。</p> <p>成果目標 「就きたい仕事がイメージできる」 高校 1 年生の割合は目標を達成しているということであるが、これはアンケートにより調査したもののか。</p> <p>【橋本要人氏（有識者）】 自分が小さい頃は父親の働く後姿を見ることができた。職場と子どもとの距離が近いところがあり、知らず知らずの間に、働くことは大変なことだということを学ぶことができた。近年は小さい頃から自分の父親が働く後姿を見ることは少ない。もう少し身近なところでそういうチャンスを増やしたりしていくことにキャンペーンを張っていく働きかけが重要だ。</p> <p>年 1 回はお金をかけないで父親の職場を見学するような機会を考えたらどうか。</p> <p>【百瀬司郎氏（有識者）】 市町村プラットフォームについて、どの位、実施しているのかその現状をもう少し具体的に説明し</p>	<p>【武田教学指導課長】 市町村及び市町村教育委員会が産業界等と連携したり、学校と協力することで、家庭・地域の教育力を活用した学校のキャリア教育を支援する仕組みのことであり、中学校における職場見学の開拓等を行っている。</p> <p>対象となる県立高校は 86 校である。</p> <p>そのとおり、アンケートによるものである。</p> <p>【武田教学指導課長】 小学校では家族の職業という内容を学んでいるが、職場の方で子どもを連れていくことは困るという声も聞いており難しさはあると思っている。</p> <p>【武田教学指導課長】 市町村により温度差がある。先進的にやっている市町村もあるが、まずは形を作ってもらうこと</p>

平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：キャリア教育支援事業

平成 26 年 9 月 12 日（金）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>てほしい。</p> <p>以前、松本にいた時、受け入れてくれる事業所を探すのが難しかった。中学校、高校では市町村で受け入れ先を見つけていただくのは大変いいやり方だと思う。受け入れる事業所にとっての恩恵について、手を入れていただけるものはあるのか、また、検討はされているのか。</p> <p>【橋本要人氏（有識者）】</p> <p>受け入れ側のメリットについては、景気の現状とすぐリンクしている。昨年から今年にかけて雇用がひっ迫している状況でありキャリアの雇用を受け入れようとする企業は増えてきている。</p> <p>これに関連して、高校生の就職内定率は、増加しているという説明だったが、経済の実態で因果関係はいささか疑問である。</p> <p>【小宮山淳氏（有識者）】</p> <p>乳幼児とのふれあい体験は、素晴らしい取組だ。これは、キャリアとライフキャリアの両方の体験を含んでいるものと考えていいのか。</p> <p>高校生の教科競技大会派遣事業とはどのようなものか。</p>	<p>から入ってもらうことだと思っている。市町村プラットフォームは 97%構築されたが実際に動いているのは半分位で、残りはこれからやるという状況である。</p> <p>受け入れ側のメリットについては、キャリア教育支援センターの総会でも意見が出ている。</p> <p>大事なことだと思っているが、現時点では、予算をつけるというところまではしていない。</p> <p>【武田教学指導課長】</p> <p>指標上、そのように説明している。</p> <p>【武田教学指導課長】</p> <p>そのとおりである。</p> <p>スポーツのインターハイで旅費を出すのと同じ事業。高校生が文化系全国大会へ行く時の旅費の一部を補助するものである。特に、商業、工業、農業の専門学科の生徒が対象。具体的には、農業</p>

平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：キャリア教育支援事業

平成 26 年 9 月 12 日（金）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>キャリア教育の成果を計るのは非常に難しい。成果目標「就きたい仕事がイメージできる」高校 1 年生の割合について、イメージの形成とは具体的にどのようなものなのか。</p> <p>中学時代のキャリア教育を通じ、そういうイメージをしっかりとって高校へつなげるというものか。</p> <p>【丸山康幸氏（有識者）】 平成 25 年度から平成 26 年度への移行で、国庫（基金）が減っているがそれはどんな内容か。</p> <p>【小林りん氏（有識者）】 今年度（＝平成 26 年度）から新しく「未来をつくる協働事業」が始まるが、どんな内容なのか。</p> <p>支出の内容について、ほとんど就業体験に係る保険料という認識でよいか。具体的には、どこにどのようなふうに使われているのか。</p>	<p>クラブの全国大会で発表するようなものがある。</p> <p>具体的にこういう仕事に就きたいというのではなく、イメージとして「こういう仕事をしていきたいな」といものが形成されてきてほしいという指標である。</p> <p>たとえば、福祉系、人とかかわる仕事がしたいとか、ものづくり等といったイメージである。</p> <p>中学でも職場体験学習を通して働くことの意義とかを学習しているが、その延長上の指標である。</p> <p>【武田教学指導課長】 平成 25 年度は、自立支援コーディネーター 18 名を配置していたが、平成 26 年度はそれがゼロになったものである。</p> <p>【武田教学指導課長】 地域にある資源を高校生が活用して、たとえばお弁当を作るとか社会貢献的な活動に補助しているというものである。文部科学省の事業で国庫 10 分の 10 の事業である。</p> <p>「長野県キャリア教育支援事業」は総会等の開催に係る構成員への謝金、旅費であり、「学校・生活支援事業」は、自立支援コーディネーターの配置に係る費用、「子育て理解教育事業」は保険料となっている。</p>

平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：キャリア教育支援事業

平成 26 年 9 月 12 日（金）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>キャリア教育の目的について、これから 20 年、30 年たった時、日本の産業構造はものすごく変わっていく。人口も減っていく。多くの産業は縮小傾向。このような産業構造になることをマクロ的に情報共有していかないといけないと思うがどのように考えるか。</p> <p>【県政モニター A 氏】</p> <p>職場体験や就業体験について、どこかに結びつけて何かの職種に持っていかうとするより、自分が何かをしたいという気持ちを引き出してあげること、高めてあげ方がいいのではないかと。</p> <p>たとえば、すべての子ども生徒たちが農業体験なら農業体験を集中的に実施する方が効果が上がるのでないか。</p> <p>【県政モニター B 氏】</p> <p>農業体験を、都市部の中学生の修学旅行で受け入れている。説明では、長野県は自然が豊かで本県の特徴を生かしていくふうになっているが、自然体験とのからみはどうなっているか。</p> <p>【県政モニター C 氏】</p> <p>平成 26 年度から自立支援コーディネーターの配</p>	<p>かつての進路指導は、その人と職業を結びつけるマッチングであった。今、キャリア教育と言っているのは、価値の教育であって、社会と関わって自分がどう生きていくかという生き方の教育である。そのための価値を作っていくためには、いろいろな体験が必要であり、そのいろいろな体験を小中高校生にやらせたいというものである。</p> <p>また、20 年後の社会はこんなふうになるのではないかといことは学校で先生たちが指導している。</p> <p>【武田教学指導課長】</p> <p>農業体験については農家の方が受け入れるのをいやがる、中学生のうちに農業がきれいになったら困る、というようなことをおっしゃっている。</p> <p>【武田教学指導課長】</p> <p>自然体験については、本県は学校行事がさかんであり中学 2 年生で 80% 以上は 3,000 メートル級の山へ登る体験をしている。</p> <p>また、農業体験は、積極的に進めており、小中学校では学校に田んぼを持っているので、それをもう少し大規模に進めていきたいと思っている。</p> <p>【武田教学指導課長】</p> <p>自立支援コーディネーターの配置を願っている</p>

平成 26 年度「県民協働による事業改善」質疑応答要旨

事業名：キャリア教育支援事業

平成 26 年 9 月 12 日（金）

質 問 内 容	回 答 内 容
<p>置がなくなっているが今後、どういうふうに対策をとっていくのか。これにかわるものを考えているのか。</p> <p>【県政モニターD氏】</p> <p>県内高等学校生徒の韓国派遣について、外国で働く人の思いに触れたとあるが、具体的にどれくらいの日本人に会われ、どんな思いに触れたのか。</p>	<p>が一般財源は厳しいと認識している。</p> <p>何らかの具体的な検討をしていかななくてはいけないと思っているが、具体的なものは進んでいない状態である。</p> <p>【武田教学指導課長】</p> <p>産学官が連携した「ひとづくり」の企画及び推進でエプソンとか大使館で働いている方の話を聞いて大きな刺激を受けたと聞いている。</p> <p>ある生徒は帰国後、自分がこれから何をすればよいのかを考え、特に英語の授業に対する態度が大きく変わったという事例をいくつか聞いている。</p> <p>また、本年、韓国の客船で不幸な事故が起こったとき、この生徒たちが千羽鶴を送ったりするなどかなり思うところがあった。</p>